

氏名	西村 慎吾
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第6026号
学位授与の日付	令和元年9月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Use of single-dose perioperative antimicrobial therapy is acceptable in recipients of living-donor renal transplants in the rituximab era (リツキシマブ時代の生体腎移植レシピエントにおいて、周術期抗菌薬単回投与は容認される)
--------	---

論文審査委員	教授 松下 治 教授 草野展周 准教授 大藤剛宏
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

【目的】生体腎移植レシピエントに対する予防的抗菌薬の単回投与が妥当であるか検討した。【対象と方法】対象は2009年から2017年に当科で施行した生体腎移植レシピエントの81例。患者背景と予防的抗菌薬、リツキシマブ投与、周術期感染症の有無について後方視的に調査した。周術期感染症は手術部位感染 (SSI)、遠隔感染 (RI)、尿路感染 (UTI)とし、UTIのリスクを単変量解析で検討した。【結果】予防的抗菌薬で多かったのはcefazolin 66例 (82%)とampicillin/sulbactam 13例 (16%)で、21例 (26%)は単回投与、60例 (74%)は複数回投与であった。リツキシマブは59例 (72.8%)に投与され、SSIが1例、UTIが13例 (14%)に認められ、RIは見られなかった。抗菌薬の投与期間とリツキシマブの投与を含め、UTIのリスク因子は認めなかった。【結語】リツキシマブ投与下の腎移植が増加しているが、予防的抗菌薬の単回投与は容認できる結果であった。

論文審査結果の要旨

ABO血液型不適合腎移植において、従来は術前の抗血液型抗体除去と脾臓摘出が必須とされていた。近年はリツキシマブの術前投与により、B細胞を減少させて急性拒絶反応を抑制することで、脾摘を回避した移植が実施されるようになった。

この背景の下、本研究では、予防的抗菌薬の投与期間が周術期感染症のうち尿路感染に与える影響について検討した。抗菌薬はcefazolin 82%, ampicillin/sulbactam 16%で、単回投与26%, 複数回投与74%であった。抗菌薬投与が単回と複数回 (3日間) の場合の尿路感染の発症リスクを単変量解析により検討したところ、両者に有意な差は認められなかった。このことから、予防的抗菌薬の単回投与は容認できると結論づけた。

委員からは、腎不全と薬物投与量、起因菌と抗菌薬の選択、先行研究、薬物代謝、母集団や対照群の設定などの研究デザイン等について質問があった。本研究者は、この研究で得られた知見と限界性を踏まえつつ、何れにも明確に回答した。

本研究は、現代の腎移植における尿路感染症の予防について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。